

平成30年11月30日

## 平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成30年4月17日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年(国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

#### 4 本校の実施状況

|      |    |     |    |     |    |     |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第4学年 | 国語 | 24人 | 算数 | 24人 | 理科 | 24人 |
| 第5学年 | 国語 | 23人 | 算数 | 23人 | 理科 | 23人 |

#### 5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

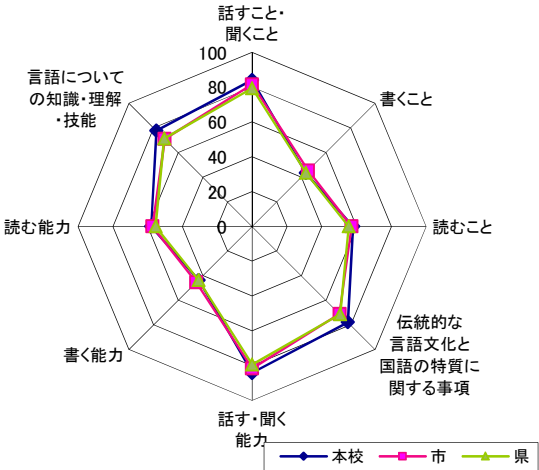
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 84.1 | 81.6 | 79.4 |
|     | 書くこと                 | 43.5 | 45.4 | 43.6 |
|     | 読むこと                 | 58.0 | 57.2 | 55.5 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 77.8 | 71.1 | 71.4 |
| 観点  | 話す・聞く能力              | 84.1 | 81.6 | 79.4 |
|     | 書く能力                 | 43.5 | 45.4 | 43.6 |
|     | 読む能力                 | 58.0 | 57.2 | 55.5 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 77.8 | 71.1 | 71.4 |



★指導の工夫と改善

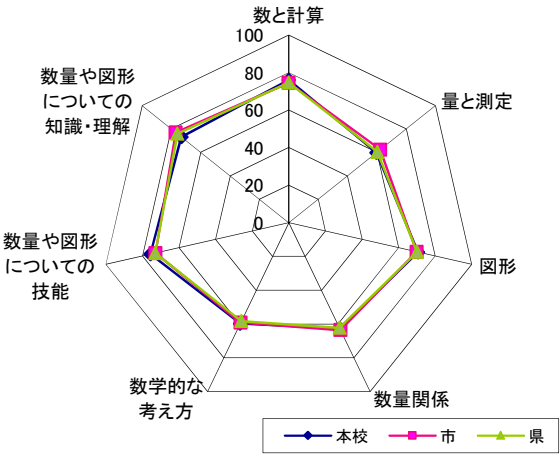
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分                | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                   | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと            | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は84.1%で、市の平均からは2.5ポイント、県の平均からは4.7ポイント上回っている。</li><li>● 互いの考えの共通点や相違点を問う問題や、話し方の工夫を問う問題、話の中心は何かを問う問題のいずれも市と県の平均を下回っている。</li></ul>                                              | <ul style="list-style-type: none"><li>日常的に話の聞き方を意識させるとともに、国語の学習では話の中心に気を付けて聞くことや要点に注意して聞くことの指導を繰り返して行っていく。</li><li>場に応じた話し方や相手に伝わる話し方の指導を今後も継続して行っていく。</li></ul>                                          |
| 書くこと                 | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は43.5%、市の平均からは1.9ポイント、県の平均からは0.1ポイント下回っている。</li><li>● 招待する手紙を取り上げた問題では、無回答率が高い。</li></ul>                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"><li>相手意識や目的意識を持ち、趣旨を明確にして、書く内容を決めたり、書く順序を押さえたりすることで書く目的に沿った内容の文章を書く力を育てていきたい。</li><li>文章で表現する機会を充実させ、文章を書くことに慣れることができるように、「書くことの日常化」を図っていきたい。</li></ul>                 |
| 読むこと                 | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は58.0%で、市の平均からは0.8ポイント、県の平均からは2.5ポイント下回っている。</li><li>● 叙述を基に、登場人物の気持ちや性格を想像して読むこと、登場人物同士の関係や物語上の役割を捉えること、の設問では、正答率が学級の約25%にとどまった。</li><li>● 無回答率は35%を越え、正答率は約40%だった</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>様々な文章（物語、説明文等）を読む機会や読解力を問う問題に触れる機会を意図的に増やして指導していく。</li><li>無回答率が高いことから、問題に対して粘り強く考える態度を育成していく。</li><li>読書を奨励するだけでなく、読む本の種類や内容についても触れ、意識して読書ができるように指導していく。</li></ul> |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は77.8%で、市の平均から6.7ポイント、県の平均から6.5ポイント上回っている。</li><li>○ 漢字の読み書きの問題では、正答率が70%を超えている。</li><li>○ 会話文におけるかぎかっこの使い方を問う問題では、無回答率が16%ではあるが、正答率を見れば、市と県の平均をわずかに上回っている。</li></ul>         | <ul style="list-style-type: none"><li>漢字を正しく書くこと、正しく読むことの両方に重点をおき、継続して指導していく。当該学年の漢字を練習するだけでなく、既習の漢字を日常的に使用する指導もしていく。</li><li>日記や作文指導を定期的に行い、原稿用紙を正しく使えるよう朱書きで訂正するなどして、繰り返し指導していく。</li></ul>              |
|                      |                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                           |

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分              | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算            | 76.1 | 74.5 | 74.6 |
|     | 量と測定            | 59.8 | 62.4 | 60.4 |
|     | 図形              | 70.7 | 69.9 | 70.1 |
|     | 数量関係            | 62.6 | 63.6 | 62.3 |
| 観点  | 数学的な考え方         | 59.8 | 59.2 | 58.3 |
|     | 数量や図形についての技能    | 75.7 | 72.9 | 73.0 |
|     | 数量や図形についての知識・理解 | 73.3 | 77.1 | 76.0 |



★指導の工夫と改善

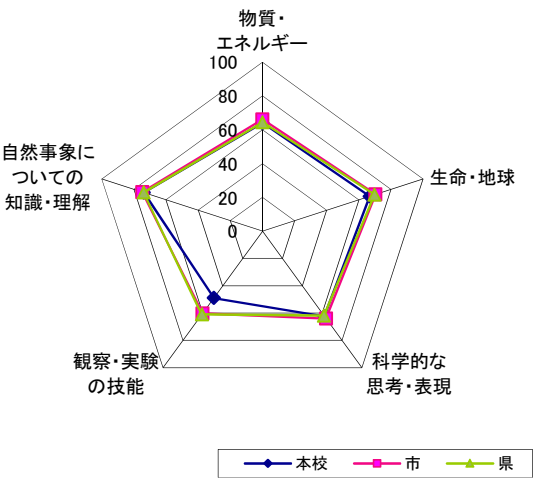
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算  | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は76.1%で、市の平均から1.6ポイント、県の平均からは1.5ポイント上回っている。</li><li>○「3位数-3位数=4位数（繰り下がりあり）」の計算は市と県の平均より19.0ポイント上回っている。</li><li>●「基準量よりも比較量の方が大きい場面で何倍かを求める」の正答率は、56.5%で、市の平均より16.1ポイント、県の平均より17.0ポイント下回った。</li><li>●2位数÷1位数=1位数（余りあり）」の計算は市の平均より6.6ポイントと県の平均より7.2ポイント下回っている。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>～は～の○倍などの感覚を実感的にとらえられるようにするために、操作的活動や体験的活動を通して、理解を深められるようにする。問題の読み取りが正しくできるよう、日ごろから問われていることを確認しながら学習を進めていく。</li><li>余りのあるわり算では、計算の仕方を図・式・言葉を用いて説明する時間を設け、計算の仕方を理解できるようにする。また、習熟を図れるように反復した計算練習を行う。</li></ul> |
| 量と測定  | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は59.8%で、市の平均から2.6ポイント、県の平均からは0.6ポイント下回っている。</li><li>○「ドッジボール1個のおよその重さを選ぶ」は、平均正答率が73.9%で市の平均からは10.2ポイント、県の平均からは10.4ポイント上回った。</li><li>●「はかりが示す重さを読み取り、みかんの重さを求める」は、平均正答率が39.1%だった。市の平均から21.2ポイント、県の平均から15.8ポイント下回った。</li></ul>                                           | <ul style="list-style-type: none"><li>はかりの示す重さを正確に よめるようにするために、他の単位においても、継続的にめもりや数直線の見方を丁寧に指導し、きちんと理解させていきたい。また、内容量を求めるためには、容器の入れ物の重さを除くなど、実生活の場面と結びつけて考えられるようにしていきたい。</li></ul>                                                                   |
| 図形    | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は70.7%で、市の平均から0.8ポイント、県の平均から0.6ポイント上回っている。</li><li>○「箱に入った同じ大きさのボールの半径の長さを選ぶ」は、平均正答率が60.9%だった。市の平均から10.3ポイント、県の平均から9.0ポイント上回っている。</li><li>●「正方形に内接する円の直径の長さを選ぶ」では、正答率が65.2%で、市の平均より10.0ポイント、県の平均より9.4ポイント下回った。</li></ul>                                               | <ul style="list-style-type: none"><li>「正方形に内接する円の直径の長さを選ぶ」の理解を深めるために、折り紙などを用いて、実際に作って観察してみるなどして、具体物操作を取り入れ、図形の豊かな感覚を身に付けさせたい。</li></ul>                                                                                                            |
| 数量関係  | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は62.6%で、市の平均から1.0ポイント下回っており、県の平均から0.3ポイント上回っている。</li><li>○「道の数量を□として、数量関係を表した線分図を選ぶ」は、95.7ポイントで市の平均からは11.1ポイント、県の平均からは12.0ポイント上回っている。</li><li>●「等分除の問題について、除法の式を立式し答えを求める」は56.5%で、市の平均から7.9ポイント、県の平均から6.0ポイント下回った。</li></ul>                                           | <ul style="list-style-type: none"><li>文章題では、問題場面を正しくイメージすることができなかったと考えられる。等分除と包含除の違いをとらえられるようにするため、様々な文章題に触れ、問題場面を図に表すなどして、正しい立式ができるようにしたい。</li></ul>                                                                                              |
|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                                                    |

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 物質・エネルギー       | 64.0 | 66.1 | 64.4 |
|     | 生命・地球          | 66.7 | 70.4 | 69.8 |
| 観点  | 科学的な思考・表現      | 62.5 | 64.1 | 61.9 |
|     | 観察・実験の技能       | 48.9 | 60.2 | 61.0 |
|     | 自然事象についての知識・理解 | 73.9 | 74.8 | 74.0 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                               | 今後の指導の改善                                                                                                                                                                |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 物質・エネルギー | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は64.0%で、市の平均を2.1ポイント、県の平均を0.4ポイント下回っている。</li><li>○ 「豆電球につき方から箱の中の回路の様子を推測する」は、平均正答率が65.2%で、市の平均を17.9ポイント、県の平均を18.6ポイント上回った。</li><li>● 「1つの豆電球と乾電池を使いあかりがつく回路を選ぶ」は、平均正答率が43.5%で、市の平均を19.3ポイント、県の平均を19.7ポイント下回った。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>電気のはたらきの学習の定着のために、条件を変えて実験を行い、実験から分かったことを図や文を使って、まとめるようにする。理科で学習したことで、身近な事象を関連付けたり話題にしたりして、日常の中でそれらの知識を生かしていけるように働きかける。</li></ul> |
| 生命・地球    | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は66.7%で、市の平均を3.7ポイント、県の平均を3.1ポイント下回っている。</li><li>○ 「昆虫の育ち方には一定の順序があることが分かる」は、平均正答率が100.0%で市の平均を8.4%、県の平均を9.2%上回った。</li><li>● 「虫眼鏡の適切な使い方が分かる」は、平均正答率が21.7%で市の平均を28.0ポイント、県の平均を29.2ポイント下回った。</li></ul>                     | <ul style="list-style-type: none"><li>実験器具を正しく使えるように、正しい使い方や使用上の注意を確認し、繰り返し使用しながら実験・観察していくようにする。</li></ul>                                                              |
|          |                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                         |

## 宇都宮市立瑞穂野南小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

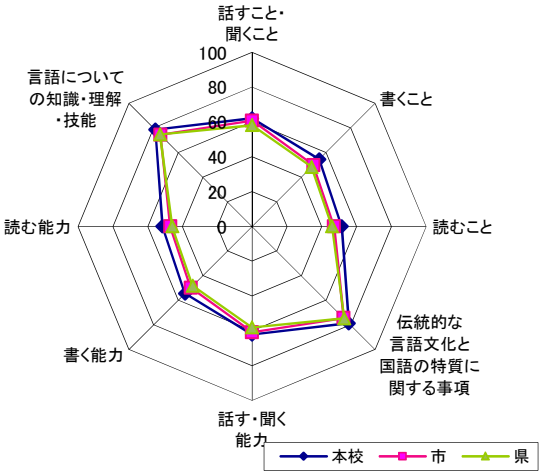
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 回答の肯定率が県平均と比べて特に高かったものは、「授業で自分の考えを文章に書くことは難しい」で市平均・県平均を20ポイント以上上回っている。
  - 全体的に見ると、学びの基礎力や学びに向かう力、社会的実践力、学級力の項目のほとんどで県の肯定的回答率を上回っている。
  - 「難しい問題にであうと、よりやる気がでる」が56.5%で、県平均を4.9ポイント下回った。
  - 「できるだけ自分ひとりの力で解決しようとしている」は69.6%で、県平均を13.0ポイント下回った。
- 
- ・ 肯定率の高い項目については、今後も意識の継続が図れるように支援していく。
  - ・ 学習に対しては、難易度の高い問題に出会うと、諦めてしまう児童も多いようだ。少しずつ難易度を上げていくなどして、達成感を味わわせ、どんな問題にも粘り強く取り組めるようにしていきたい。
  - ・ 肯定率の低い項目で多かったのは、自ら学ぶ力や家庭学習の取り組み方などであった。将来の自分について家庭で話す機会を設けてもらったり、家庭学習の充実を図ったりするなど家庭との連携が必要である。
  - ・ 学年だよりや保護者懇談会などを通じて、児童の学習の様子や学習したことを伝え、家庭で話し合うきっかけとなるようにする。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 62.1 | 60.8 | 58.1 |
|     | 書くこと                 | 54.5 | 49.8 | 48.3 |
|     | 読むこと                 | 51.5 | 47.0 | 45.9 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 78.6 | 74.4 | 74.8 |
| 観点  | 話す・聞く能力              | 62.1 | 60.8 | 58.1 |
|     | 書く能力                 | 54.5 | 49.8 | 48.3 |
|     | 読む能力                 | 51.5 | 47.0 | 45.9 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 78.6 | 74.4 | 74.8 |



★指導の工夫と改善

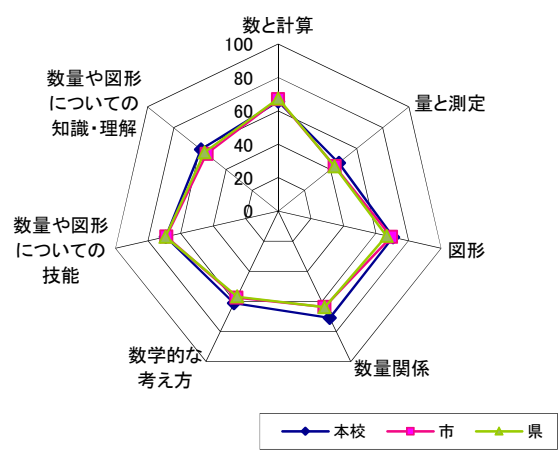
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分                | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                    | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと            | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は62.1%で、市の平均からは1.3ポイント下回り、県の平均からは4.0ポイント上回っている。</li><li>○ 話し合いにおける考えの共通点や相違点を問う問題や、意見の共通点を問う問題では、市と県の平均点を上回っている。</li><li>● 司会者の役割を理解し進行することについて問う問題では市と県の平均を大きく下回っている。</li></ul>               | <ul style="list-style-type: none"><li>話し合いをする際には、話をする内容にばかり目を向けて話したり、聞いたりするのではなく、司会者の役割を考えながら参加することを指導していく。また、それに合わせて、話し合いの目的に合わせた司会者の役割や進め方も指導していく。</li></ul>                                                                      |
| 書くこと                 | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は54.5%で、市の平均からは4.7ポイント、県の平均からは6.2ポイント上回っている。</li><li>○ 内容に合う資料を選ぶ問題や、資料を基に説明する問題は、いずれも市や県の平均点を大きく上回っている。</li><li>● インタビューの結果を基に、必要内容を整理して書く問題は、市や県の平均点を少し下回っている。</li></ul>                     | <ul style="list-style-type: none"><li>資料の内容や意味を考え、選んだり、説明したりすることは定着しつつあるので、引き続き資料の内容や意味を考える機会を多く取り入れさらに定着させていく。</li><li>伝えたいことを「整理する」ということを苦手としている児童が多いので、整理の仕方を指導するとともに、実際に整理して書く機会を意図的に取り入れていく。</li></ul>                         |
| 読むこと                 | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は51.5%で、市の平均からは4.5ポイント、県の平均からは5.6ポイント上回っている。</li><li>○ 中心となる語や文を捉えて読む問題や、叙述を基にして、特徴的な描写を捉える問題、描写から、心情を想像して読む問題は、いずれも市や県の平均点を大きく上回っている。</li><li>● 段落の要点を捉えて要約する問題は、市や県の平均点を大きく下回っている。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>文章の内容を確認する際には、要点を確認するだけでなく、要約した文を書くことも合わせて指導していくことで定着を図っていく。</li><li>教科書の物語文の面白さを共有するだけでなく、児童の読んだ本や教師の勧める本の面白さを共有する場を設定し、多くの設定の登場人物や、特徴的な描写などに触れることができるようにすることで、さらに「読むこと」の向上を図っていく。</li></ul> |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は78.6%で、市の平均からは4.2ポイント、県の平均からは3.8ポイント上回っている。</li><li>○ 漢字の読みを問う3問中1問と慣用句の使い方の問題以外は、全て市や県の平均点を上回っている。</li><li>● 慣用句の使い方の問題は、市や県の平均点を大きく下回っている。</li></ul>                                        | <ul style="list-style-type: none"><li>慣用句やその意味を調べる学習だけでなく、実際の生活の中で使う設定をして使い方を考えさせたり、考えたことを交流したりしていく場を作り、楽しみながら使えるように指導していく。</li></ul>                                                                                               |
|                      |                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                     |

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分              | 本年度  |      |      |
|-----|-----------------|------|------|------|
|     |                 | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算            | 65.7 | 66.9 | 67.4 |
|     | 量と測定            | 46.4 | 43.2 | 43.0 |
|     | 図形              | 70.5 | 69.4 | 66.5 |
|     | 数量関係            | 71.0 | 63.7 | 63.9 |
| 観点  | 数学的な考え方         | 61.2 | 57.5 | 56.8 |
|     | 数量や図形についての技能    | 69.1 | 68.8 | 69.3 |
|     | 数量や図形についての知識・理解 | 59.1 | 54.9 | 56.4 |



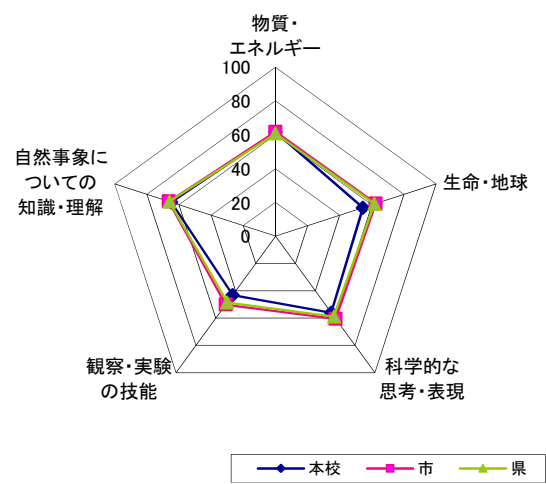
★指導の工夫と改善

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算  | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は65.7%で、市の平均からは1.2ポイント、県の平均からは1.7ポイント下回っている。</li><li>○ 小数の概算の問題や、小数の引き算の問題、小数と整数の大小を考える問題、数直線上での分数の表し方の問題、基準量よりも比較量のほうが大きい場面で何倍かを考える問題では、いずれも市や県の平均点を大きく上回っている。</li><li>● ある小数が0.01を何個集めた数かを選ぶ問題や、商に余位と余りがある割り算の問題、買い物をする場面で見積もりをする問題、基準量よりも比較量の方が小さい場面で何倍かを考える問題では、いずれも市や県の平均点を大きく下回っている。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>○ 計算を正確にすることや、数の大小や表し方などは定着しつつある。引き続き、様々な場面設定の中で活用させる場を位置付けていき、さらに定着させていく。</li><li>● 数の構成を理解できるように、具体物を使ったり、図に示したりするなど、段階的に指導していき理解できるようにする。</li><li>● 与えられた場面で計算を適用していけるように、児童の生活場면을想起できるような問題を意図的に取り入れ、必要感をもって使えるように指導していく。</li></ul> |
| 量と測定  | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は46.4%で、市の平均からは3.2ポイント、県の平均からは3.4ポイント上回っている。</li><li>○ 1 mの正方形の辺に1 cmの正方形が何枚並ぶかの問題や、式と図に合う複合図形の面積を求める方法を説明する問題は、いずれも市や県の平均点を大きく上回っている。</li><li>● はがきのおよその面積を求める問題では、市や県の平均点を大きく下回っている。</li></ul>                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"><li>● 児童の身の回りにあるものについて、大きさや重さなどを予想し、実際に測定してみようという活動を授業の中のできる限り多く取り入れることで、量の感覚を身に付けていけるようにする。</li></ul>                                                                                                                                      |
| 図形    | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は70.5%で、市の平均からは1.1ポイント、県の平均からは4.0ポイント上回っている。</li><li>○ 平行四辺形の作図の問題は、市や県の平均点を大きく上回っている。</li><li>● 平面上にあるものの位置を表す問題では、市や県の平均点を大きく下回っている。</li></ul>                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"><li>● 作図については、引き続き児童の技能の定着を図るために生活場面で使う場を作ったり、投げかけたりしていく。</li><li>● 「誰にでも分かる」という視点でものの位置の表し方を考え、説明させることで、平面上にあるものの見方や表し方を練習させていく。</li></ul>                                                                                                 |
| 数量関係  | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は71.0%で、市の平均からは7.3ポイント、県の平均からは7.1ポイント上回っている。</li><li>○ 考え方に合わせて式に表したり、おつりを求めたりする問題と二次元表の欄に当てはまる数を求める問題以外は、全て市や県の平均点を大きく上回っている。</li></ul>                                                                                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"><li>● 社会や理科の授業とつなげて実際の場面で立式したり、表を使ったり、読み取ったりしていくことで、さらに算数を活用していけるようにする。</li></ul>                                                                                                                                                           |
|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                               |

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分             | 本年度  |      |      |
|-----|----------------|------|------|------|
|     |                | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 物質・エネルギー       | 61.6 | 61.7 | 60.7 |
|     | 生命・地球          | 54.5 | 62.4 | 61.6 |
| 観点  | 科学的な思考・表現      | 56.1 | 60.6 | 58.9 |
|     | 観察・実験の技能       | 43.2 | 50.1 | 48.6 |
|     | 自然事象についての知識・理解 | 64.9 | 66.3 | 66.0 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                        |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 物質・エネルギー | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は61.6%で、市の平均からは0.9ポイント上回り、県の平均からは0.1ポイント下回っていて、市や県とほぼ同程度である。</li><li>○ 物質の性質や規則性を問う問題は、市や県の平均点を大きく上回っているものが多い。</li><li>● 正しい用語を使った説明や、結果を予測する問題では、市や県の平均点を大きく下回っている。</li></ul>                                                                         | <ul style="list-style-type: none"><li>用語を覚えることに重きを置かず、用語と自然事象とを結びつけて理解させていくことで、用語を正しく使えるようにしていく。</li><li>授業の中で得た結果だけでなく、考察する場面や学習したことをまとめる場面で条件を変えた時の結果を予想させるなどして、見つけた性質や規則性を使えるようにしていく。</li></ul>              |
| 生命・地球    | <ul style="list-style-type: none"><li>平均正答率は54.5%で、市の平均からは7.9ポイント、県の平均からは7.1ポイント大きく下回っている。</li><li>○ 方位磁針の名称を問う問題や、月や星座の動きや記録方法を問う問題では、市や県の平均点を大きく上回っている。</li><li>● 筋肉のようすや、季節の生き物のようす、方位磁針の適切な操作方法を問う問題で、市や県の平均点を大きく下回っている。</li><li>● 与えられた自然事象についてその理由を説明する記述式の問題で、市や県の平均点を大きく下回っている。</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>生命に関する学習では、時期や状態に合わせたようすを理解しやすいように、観察した結果を整理する時間を位置付けたり、表を取り入れて観察結果を整理したりしていく。</li><li>自然事象のようすを説明する活動だけでなく、その理由を学習して分かったことを使って説明できるように活動の際には、適宜助言しながら取り組ませていく。</li></ul> |
|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                                 |

## 宇都宮市立瑞穂野南小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○ どの設問についても、市や県の平均を上回っている。中でも、学びに向かう力に関する項目の中の「自己責任」と「達成感」に関する設問は、市や県の平均とほぼ同程度であったが、それ以外の設問については、大きく上回っている結果であった。

● 教科に関する調査結果と比較してみると、学びに向かう力の中の「自己有能感」や、自ら学ぶ力のすべての項目、学びを律する力、社会的実践力、家庭学習力の項目で、個人差が非常に大きくなっており、教科に関する調査結果と質問しに関する調査結果に強い相関関係が見られた。

・ 家庭学習に関しては、学級での児童の様子を見ていると「自主学習にしっかり取り組みたい」、「〇〇で学習した復習をしておこう」などと考えている児童が多く意識は高いが、自分だけでは実践が難しい様子がある。学年だよりや学級懇談会の場を利用して保護者への協力をお願いしていく。

・ 社会的実践力では、特に、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」、「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」の設問で個人差が大きくなっている。授業の中で自分の考えや意見をまとめる時間を確保した上で、安心して発表できるようにしたり、ニュースや地域の出来事を学習内容と関連させて取り入れたりするなどして意識を高めていく。

## 宇都宮市立瑞穂野南小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                           | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                       | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                                   |
|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 自分の考えをもち、それを文章にまとめて書く指導の充実       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年に応じたノート指導を行い、自分の考えをノートに残せるようにする。</li> <li>・ 「理由を明確に」を目的にして話したり、聞いたりする学習活動を取り入れる。</li> </ul>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年で結果に違いがあった。</li> <li>・ どちらの学年も、教科に関する調査結果と質問紙に関する調査結果と強い相関関係が見られた。</li> </ul>                                                     |
| 自分の考えをもち、自分の考えや意見を発表するための話す指導の充実 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の考えや意見を参考にしながら話す内容を考えられるように、友達との学び合いの場を設定する。</li> <li>・ その時々話し方のポイントを示したり、友達の話し方を参考にしたりできるように活動の流れを組み立てる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質問紙調査の結果からどちらの学年も、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という設問に対して、市や県の平均を大きく上回っていた。</li> <li>・ 教科に関する調査結果と質問紙に関する調査結果と強い相関関係が見られた。</li> </ul> |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題          | 重点的な取組                                                                                      | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 個人差に対応した授業のあり方を見つけること | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ かがやきルーム担当教員との連携</li> <li>・ 有効な習熟度別学習の設定</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担任教員とかがやきルーム担当教員との「伸ばしていくポイント」や「重点的に補充するポイント」を確認し、共通理解した上での指導を充実させていく。</li> <li>・ 児童の実態を把握した上で、個に合ったコースの選択ができるようにしていく。</li> <li>・ 学習の進め方だけでなく、コースの児童に合った教材を選択して取り入れていく。</li> </ul> |